

越後平野生態系ネットワークの推進状況

■第1回越後平野生態系ネットワーク推進協議会の概要

越後平野には、トキ・ハクチョウ類の飛来が多く見られ、近年では地域の自治体や市民団体等により、それらの保全や活用のための様々な取組みが各地で活発化しています。

そうしたなか、河川や田園、里潟等の水辺の生物多様性の保全及び持続可能な利用のため、多様な主体が連携・協働し、生態系ネットワークの形成を推進するとともに、自然の価値や魅力を活かした地域の活性化を目指すことを目的として、「越後平野における生態系ネットワーク推進協議会」が2019年7月に設立され、会議が開催されました。

■日時：令和元年7月22日（月） 10:00～12:00

■場所：美咲合同庁舎1号館 北陸地方整備局

■出席者（敬称略）：

徳島大学 大学院社会産業理工学研究部准教授 河口 洋一

新潟大学 農学部教授 関島 恒夫

長岡技術科学大学 環境社会基盤工学専攻教授 細山田 得三

瓢湖の白鳥を守る会 佐藤 巖

新潟県水鳥湖沼ネットワーク 佐藤 安男

（一社）長岡市緑地協会 鈴木 重尙

新潟県野鳥愛護会 千葉 晃

北陸振興会議 NPO 研究委員会 餅谷 紀男

新潟県 県民生活・環境部長 【代理】環境企画課長補佐 五十嵐 勝幸

新潟県 農林水産部長 【代理】農業園芸課長 牛腸 眞吾

新潟県 農地部長 【代理】農地計画課長 佐藤 孝明

新潟県 土木部長 【代理】河川整備課参事 羽賀 正世志

新潟市 環境部長 長浜 祐子

新潟市 農林水産部長 【代理】農村整備・水産課長 小林 巧

新潟市 土木部長 吉田 和弘

長岡市 環境部長 若月 和浩

新発田市 環境衛生課長 内田 穰司

環境省 関東地方環境事務所次長 田村 省二

国土交通省 北陸地方整備局河川部長 田部 成幸

国土交通省 北陸地方整備局信濃川河川事務所長 室永 武司

国土交通省 北陸地方整備局信濃川下流河川事務所長 足立 文玄

国土交通省 北陸地方整備局阿賀野川河川事務所長 中谷 正勝

【オブザーバー】佐渡市 産業観光部農業政策課長 金子 聡

【オブザーバー】農林水産省 北陸農政局農村振興部農村環境課長 二平 聡

■事務局：国土交通省 北陸地方整備局河川部、(公財)日本生態系協会

■議事：(1) 生態系ネットワークについて (話題提供)

- ・他地整 (四国案件) の先進的な事例
- ・地域を活性化させる生態系ネットワークの取組み

(2) 越後平野における生態系ネットワークの取組みについて

(3) 今後の進め方



○議事要旨：

① 他地整 (四国地整) の先進的な事例

(会長)

- ご紹介いただいた吉野川の取組みについて、作業部会の作り込みが上手だなという印象を受けた。専門部会とともに、ワーキンググループをしっかりつくっていただきたい。
- 協議会は、まちづくりと非常に関わりを持っている。まちづくりと連携した形で、どのようにそれぞれのまちの将来構想と関連づけていくか、協議会の進め方とも合致するので、協議会の中に首長に入っていくという取組みは必要。

② 越後平野における生態系ネットワークについて (資料3)

(委員 A)

- トキを指標種にしているのは、協議会の取組を行うことにより、大型水鳥が越後平野に生息できる環境を整え、目指すべきゴールを関係者で共有するためのシンボリックな位置づけであるか確認させていただきたい。
- これから情報発信をしていく必要があるが、指標種の定義をきちんと発信し、分かりやすく説明していく必要がある。

(事務局)

- トキの位置づけとしては、発言された趣旨のとおりです。定義についても今後の情報発信に向けて整理していきたい。

(委員 B)

- 対象地域は越後平野ということですが、例えば阿賀野川の水系は上流まで辿ると、福島県の檜枝岐村や尾瀬国立公園まで辿り着きます。あくまでも参考にですが、流域圏全体にまで思いを馳せていただきたい。

(事務局)

- 流域圏全体を見ていく視点は非常に重要ですが、まずは地域の活性化という取組みを進めていくという観点から、ある程度絞った中で取組むことも重要であり、今回は越後平野を協議会の主な構成として検討を進めていきたい。

③ 委員配布資料「2018 年度の調査結果～ハクチョウ」

(委員 C)

- コハクチョウについては、国内に飛来するのが4～5万羽で、その約半分近くが新潟県に飛来しており、シンボリックな存在として間違いない。オオヒシクイについても、福島潟周辺が重要な生息地で、保全とともに活用いただければ、この有意義なコンテンツをどのようにつなげていくか、ワイズユースの視点で重要。

(会長)

- 新潟県に住んでいる方々には、ハクチョウ類やガン類が当たり前存在になっているが、全国的には決して当たり前ではなく、非常に魅力的に感じられる。

温暖化等も関連している可能性があるが、将来的には、大型水鳥類がいつまでも生息し続けるだろうという前提自体が、難しくなってくることもある。生息し続けるような魅力的なまちづくりや景観づくりが、新潟県においては重要。

④ 今後の進め方（資料4）

(委員 D)

- 本年から来年にかけ、全体構想の検討・策定となるが、おそらくこの中で具体的に取組まれそうなことについても抽出していくこととなる。その中で、例えば今回委員となっている鳥類関係の方々に、鳥類に関してはどのような場所でどのようなことが可能かという、ヒアリングを行うと良い。
- 行政機関や市町村の方々は、実際に自分たちがどのように関わっていくのか不安なところもあると思うので、生態系ネットワーク形成の先行事例を見に行き、自分たちが関わることでどのようにプラスに活かしていくのかということを経験する機会も作ると良い。

(事務局)

- いただいたご意見につきましては、皆様が行動計画についてイメージしやすくなるようなことを企画していきたい。

(会長)

- 先行事例も見て学びながら、協議会の立ち上げ、進め方について考えていくことも重要だが、そのことだけに引っ張られることなく差別化を図り、最後に立ち上げた北陸が最も良いとされるような協議会になるように、皆様のお知恵を拝借いただきたい。
- 今後このロードマップについての検討を重ねていくこととなりますが、また具体的な案が出ましたら、ご紹介願います。こちらは5年で計画が組まれておりますので、ぜひこの中で有意義な取組みをして、この計画が10年等に伸びる形で進められていけば成功だと思います。

(委員D)

- 現在はとりあえず5年という計画が出ているが、ワーキンググループ等の地域レベルに落としていく際、地域の農家などから「5年で区切るのか」というような言い方をされます。そのため、「とりあえず現在の計画は5年だが、短期的に取組もうという姿勢ではない」としっかり主張することが重要。

⑤ その他

(会長)

- ビジネスにどう結び付けるかという点ですが、県外の人が新潟県に住みたい、新潟県で営業したいと思うようなビジネスを、この協議会の中で作り出すことが可能であれば、最終的に持っていくゴールなのではないかと思えます。

以 上